

＜応用実習の評価項目とその具体的な観点＞

実習の評価は、以下の6項目について、評価を行います。

① 幼児理解と記録

- ・ 一人一人の幼児を理解しようと努めていたか。
- ・ 幼児をひとりの人として尊重する意識をもって理解しようとしていたか。
- ・ 幼児の遊びや生活の姿を丁寧に観察しようとする姿勢が見られたか。
- ・ 記録の提出期限を守っていたか。

② 指導案の作成（教材研究・環境構成を含む）

- ・ 幼児の実態をふまえた指導案となるよう考えながら作成に取り組んでいたか。
- ・ 指導の仕方やその意図について、指導案の中に書かれていたか。
- ・ 幼児の実態をふまえた教材研究や環境構成を行おうとしていたか。

③ 保育実践と省察

- ・ 立案した指導案に基づきながら、臨機応変さや柔軟さをもって保育を進めようとしていたか。
- ・ 保育チームとしての協働性をもって保育を行おうとしていたか。
- ・ 課題曲を最後まで弾き終えようとしていたか。
- ・ 保育中の課題などを振り返って整理し、それらを次に活かそうとする姿勢が見られたか。

④ 幼児に対する態度

- ・ 幼児に対する態度が柔らかさや優しさをもった丁寧なものであったか。
- ・ 幼児をひとりの人として尊重する意識をもって関わろうとしていたか。

⑤ 事務の処理

- ・ 提出期限を守ることができていたか。

⑥ 実習態度

- ・ 実習に向かう誠実な態度が見られたか。
- ・ 挨拶、言葉遣いや立ち振る舞いは適切であったか。）
- ・ 実習全体を通して、自分なりの目標をもち、意欲的に取り組んでいたか。